

●指導の実際

- ①「導入」 震災の関連資料から事前アンケートに進むことで、教材の内容に興味や関心をもたせました。
- ②「展開」 思考ツールを活用することで、命について、様々な視点から考えさせました。
- ③「終末」 教師の説話によって、「自助・共助」を実現することのよさについて確認し、今後の学びにつなげました。

【導入】事前アンケートの活用

○大地震について聞いたことがありませんか。
 ・阪神・淡路大震災があった。
 ・東日本大震災で、津波が起きました。
 ・たくさんの方が亡くなりました。
 ・多くの方が家を失いました。
 ・家や建物が倒れた。

知っているが、他の地域での出来事であり、自分事として考えられていない実態がある。

【展開】多面的・多角的な視点で考えさせるための工夫



だれと逃げればいいのか、不安だったと思う。自分だったら…。



3年 名前 _____

○自分ならかけがえのない命をどのように守っていくか、考えてみましょう。

--	--	--	--

相手への伝え方

- ・～の理由は○○だ。 ～～だから、○○だ。
- ・～は○○だ。どうしてかというと、(なぜならば) △△だからだ。
- ・～の答えは○○だ。△△が、その理由だ。
- ・～という理由から、○○が△△であることが分かる。

思考ツール クラゲチャートを用いて整理して板書することで、児童が多様な考え方に接することができるようにしました。



「自分ならかけがえのない命をどう守るか」についての児童の発言を自助と共助に分類しました。

- ・危険な行動をしないようにしたい。避難する場所を決めておきたい。【自助】
- ・命を守るように避難訓練を真剣にしたい。だれかを助けることができるなら助けてたい。【共助】

成果と課題

- 成果 指導計画を教科等横断的な視点で作成することで、その後の各教科等の授業でも自分の命や他の人の命を守ることに尊さを考えることができた。
- 課題 「命を守るために何を学ぶか」だけでなく、「命を守るために何ができるようになるか」という道徳的実践へとつながるように、目指す資質・能力を明確に設定して指導にあたる必要がある。